



## 4.さあ、山口県で農業をはじめよう!

### ステップ1

### 相談会などで情報収集をしよう!

まずは、農業経営の実際や実務の情報を集めましょう。

就農・就業相談会、現地見学会などに参加し、各種資料を集め、就農までのアドバイスをもらいましょう。

東京や大阪でもお待ちしております。

相談は、[やまぐち農林振興公社](http://yamaguchi-nogyo.com)へ(TEL:083-924-8900)



### ステップ2

### 農業を始める動機・目的・働き方を考えよう!

就農を目指した動機・目的や目指す働き方(自営就農・法人就業)を整理し、家族とよく話し合うことも大切です。目指す方向によって、体験や準備も異なります。

例:「ふるさとを活性化したい」「自然の中で働きたい」、「新鮮・安心・安全な食べ物を作りたい」、「家族で農業をしたい」、「加工を含めて6次産業化を目指したい」

### ステップ3

### まずは、農業体験をしよう!

1日~5日程度の農業体験、4日間の農大での短期入門研修など、1~6週間程度の農業インターンシップ(農業法人での就業体験など)へ参加しましょう。

農業体験等により、農業の楽しみや、やりがい、希望する品目への向き・不向き、自分に合った働き方を見極めましょう。

(体験・研修メニュー:P11)



### ステップ4

### 市町担当課に具体的な相談をしよう!

農業を始めたい地域を決めたら、その地域の市町の担当課・県農林水産事務所に相談し、今後の就農までの流れ、研修先などを決定しましょう。

**市町によって、移住経費・施設整備費などの様々な支援策を設けています。**

就農のイメージが決まれば、「ステップ5」へ。

○ 自営就農 ⇒ P8

○ 法人就業 ⇒ P10

### ① 経営品目について知ろう!

自分の経営の中心となる作物を考えましょう。

栽培する作物や家畜の特性、就農予定地の特性、販売方法、需要見込み、好み、価値観、資本力など、多角的な視点で品物を選定することが必要です。

### ② 長期研修を受けよう!

生産技術を習得するために研修を受けましょう。

農業大学校の社会人研修等で農産物の栽培や飼養管理の知識・技術を身に付けるとともに、就農地域での約1年間の現地研修で、地域との関係作りを行うことも円滑な就農につながります。(P11)

**県外出身、非農家出身の方も山口県で農業を始めています!**

要件を満たせば、研修期間中、最長2年間、農業次世代人材投資資金(準備型)等の交付を受けることができます。(年間最大150万円)

**担い手支援日本一!**山口県では就農時65歳未満の方も対象です。



### ③ 就農地を決定しよう!

ステップ4で決めた自分の住みたい市町の担当課や農業委員会などに相談し、就農地を決定しましょう。生産物の適性、販売方法、産地・生産部会などの有無、経営の発展性などを考慮することが重要です。

県農林水産事務所・市町担当課などへ相談し、生産物にあった土地選びをしましょう。農地の借入・取得には、農業委員会の許可が必要です。



### ④ 営農計画を作成しよう!

就農するまでに営農計画を策定しましょう。経営規模、必要な機械・施設、労働力、経費、所得など様々な視点から営農計画を作成します。(市町担当課や県農林水産事務所も営農計画の作成を支援します)

営農計画を市町長から認められる(認定新規就農者になる)と、就農後に農業次世代人材投資資金(経営開始型)や新規就農者向け資金など、様々な支援を受けることができます。

## ステップ6-1(自営就農)

## 本格的に農業経営を開始!

経営開始後は、経営を安定させるため、これまで以上に努力が必要となります。

**担い手支援日本一!** 県農林水産事務所や市町担当課も経営安定に向けて支援します。

要件を満たせば、**経営開始後、最長5年間、農業次世代人材投資資金(経営開始型)の交付を受けることができます。**

(年間最大150万円)

新たに農業を始める人向けに、農地の利用料や施設整備費の助成、資金融資などの制度を準備しています。



### 自営就農するためには…

#### 1 営農の3条件

##### 資本

**営農資金+生活資金が必要です。**

2~3年分の生活費、運転資金、設備投資資金を確保しましょう。融資制度なども活用し、余裕を持った計画を作りましょう。

##### 農地

**作物栽培に適した農地を確保するのが原則です。**

気象・土質等自然条件や市場等販売面を考慮しましょう。

##### 労働力

**家族や仲間・人とのつながりを大切に。**

経営規模に合わせた労働力(家族・パート雇用等)が必要です。農業を志す仲間・先輩農家など縦・横のつながりを大切にしましょう。

#### 2 技術

##### ●生産:適地適作が基本です。

マニュアル通りにいかないことも多い!先輩農家から学び、技術を磨きましょう。

##### ●販売:農畜産物は、売り先を考えて生産することが基本です。

販売先は、農協共販・卸売市場、直売所など。売れ筋・需要等を考えて生産しよう。

##### ●経営管理:毎日、簿記記帳を行い、経営判断を行いましょう。

短・長期的に作物選定・作型組合せ・労働力の配分などの経営判断を行いましょう。

#### 3 住宅

生産農地・施設との距離や出荷・調製場所などを考慮して決めましょう。

## ステップ5-2(法人就業)

## 就業の準備をしよう！

### 長期研修を受けよう



農業法人で働くためには、農業の基本的な知識や技術とともに、農業機械の資格などを取得し、即戦力になることが求められます。就業前に農業大学校などで研修を受講し、知識・技術を身に付けながら、自分の働きたい農業法人を見つけましょう。(P11)

**担い手支援日本一！** 担い手養成農大研修に法人就業コースを設置！

### 法人の探し方

自分の働きたい地域や携わりたい品目を中心に自分に合う農業法人を探しましょう。やまぐち農林振興公社や県立農業大学校、山口県農業会議、市町などに相談し、就業先を探すとともに、農業インターンシップや現地研修などで実際に作業を体験し、自分に合う農業法人を見つけましょう。

## ステップ6-2(法人就業)

## 農業法人へ就業！

農業法人での雇用等により、農業に従事し、賃金をもらいます。

雇用後も、雇用先でOJT研修を受けることもできます。

**担い手支援日本一！** 農業大学校で定期的に行う研修で、知識や技術の習得を支援。

**担い手支援日本一！** 新規就業者が農業法人等で働きやすい環境作りを支援します。

OJT研修費を最長5年間支援(農事組合法人構成員も含む)。

新規就業者を受入れるための機械施設・住宅整備を支援。

### 農業法人に就職する際の留意事項

特定の農業法人に興味を持ち就農を真剣に考えはじめたら、その農業法人の経営現場に実際に足を運ぶことが大切です。家族がいる方は同伴するとよいでしょう。

農業法人に就職することは、その地域・農村で生活することになります。生活環境に家族全員が満足することが、新規就農の場合と同じように、農業法人への就職を決める場合も大切です。

農業経験がまったくなく、農業への適正を

不安に思っている人は、正式採用の前に研修のかたちで何日か体験することをおすすめします。経営者と相談してみてください。

農業法人への就職は、新規就農にくらべてリスクが少ないとはいえ、安易な選択は後悔のもとです。採用前の事前体験にも、農業インターンシップ制度を活用できます。

就職(採用)にあたっての約束事は、必ず「雇用契約書」などの書面で行ってください。後々のトラブルを回避するために必要なことです。